

# SCIENTIFIC MEETING ON THE RARER TYPES OF EHLERS-DANLOS SYNDROMES

TOKYO, JAPAN • NOVEMBER 18-19, 2019

FROM GENETICS TO MANAGEMENT

TOMOKI KOSHO, CONFERENCE CHAIR



The **Ehlers-Danlos** Society

エーラス・ダンロス症候群 (Ehlers-Danlos Syndrome; EDS) は、皮膚・関節の過伸展性、各種組織の脆弱性を特徴とする先天性疾患の総称であり、全体としての頻度は1/5,000人とされています。2017年に改定された国際分類では、13の病型に分類され、頻度の高い古典型、血管型、関節型の他に、数例～数十例の報告からなる稀少病型が含まれます。その多くがコラーゲン代謝に関連した遺伝子の異常により発症しますが、特に稀少病型においては、自然歴、病態は未だ不明な点が多いです。

20世紀初頭に、デンマークの皮膚科医Ehlersとフランスの皮膚科医Danlosが報告した歴史のある症候群で、欧米での認知度は比較的高いですが、日本を含めたアジアでの認知度は十分とは言えません。今回、国際的な患者・専門家団体であるThe Ehlers-Danlos Societyの意向により、“From Genetics to Management”とのテーマで、稀少病型を中心に、アジア初の本格的なEDSの学術会議を開催することとなりました。招待講演には、各病型の臨床的・基礎的研究で世界をリードする専門家が多数来日します。

演題は、稀少病型に限らず、EDSに関する様々な内容を受け付けます(症例報告、自然歴、遺伝型・表現型関連、新規遺伝子単離、病態、動物モデル、治療、遺伝カウンセリング等)。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

大会長: 古庄知己 (信州大学医学部遺伝医学教室教授)



Prof. Fransiska Malfait  
(Ghent Univ.)



Prof. Clair Francomano  
(John's Hopkins Univ.)



Prof. Peter Byers  
(Washington Univ.)



Prof. Johannes Zschocke  
(Innsbruck Medical Univ.)



Prof. Sherene Shalhoub  
(Washington Univ.)

会期: 2019年(令和元年) 11月18日(月)~19日(火)

会場: ホテルサンルートプラザ新宿

(〒151-0053 東京都新宿区代々木2-3-1)

<日本側実行委員会>

松本健一(島根大学総合科学研究支援センター)

水本秀二(名城大学薬学部病態生化学)

林周次郎(獨協医科大学皮膚科)

URL <https://www.ehlers-danlos.com/2019-tokyo/>

<主催> The Ehlers-Danlos Society  
(<https://www.ehlers-danlos.com>)

<お問い合わせ先> 信州大学医学部遺伝医学教室  
〒390-8621 松本市旭3-1-1 Tel: 0263-37-2618

